

10月29日(日)・大会2日目 11:00~12:20 (会場: F402) (80分)

●セッション【10】

テーマ:イノベーションと組織

「自動車産業の電動化と組織革新」

◎藤本隆宏(早稲田大学大学院経営管理研究科教授)

溝畠仁 氏(本田技術研究所先進技術研究所次世代電動車研究ドメイン長)

朴泰勲(関西大学商学部教授)

◎セッション・リーダー

〔概要〕

近年、電気自動車市場の拡大により、自動車産業は100年に1回に起る大きな変革期を迎えている。そのため、自動車産業では、ガソリン自動車と電気自動車を同時に開発している企業が多く、開発組織構造が複雑化している。電気自動車市場の拡大により、自動車メーカーはガソリン自動車の開発を深掘りする知識と電気自動車の開発に必要な探索的知識を同時に蓄積する両利きの戦略を展開している。その結果、複雑で多様化した知識を効率的に吸収・消化できる開発組織をいかに構築できるかが企業の競争力を大きく左右する重要な要因になってきた。そのため、開発組織の効率化を図る企業が増えているが、組織慣性と経営資源の制約により組織革新が進んでいない企業が多い。また、将来の産業デファクトスタンダードをめぐって自動車メーカー各社の電動化戦略が大きく異なっている。本セッションでは、自動車メーカーの開発組織の革新と電動化戦略について日本を代表する研究者と実務家が自動車の電動化と開発組織の改革について講演する。

〔参加者へのメッセージ〕

自動車産業は日本のものづくりを代表する基幹産業であり、長年日本経済を支えてきた。しかし、近年電気自動車の普及により大きな変革の波が押し寄せているため、日本企業の多くが技術的パラダイムのシフトに対応しつつ、組織的課題にも取り組む必要性が高まっている。本セッションの参加者は日本を代表する自動車産業の研究者藤本隆宏氏と現役の本田技術研究所次世代電動車研究ドメイン長の溝畠仁の講演により、日本企業が両利き戦略を進める際に直面している組織的課題に関する新しい知見を得ることができる。